

システムの活用法を知る程に統合システムの導入を熱望
多機能でありながらシンプルな診療データ統合管理システム「STELLAR」



診療部長 / 病院情報管理室長 市原典子先生

導入経緯

電子カルテの補助ツールに止まらない
PACS への興味

私共は、2013年6月末に電子カルテの導入プロジェクトを立ち上げました。これまでオーダーリングシステムも導入されておらず、記録と言えば「紙」という、システムの使用経験があるメンバーがほとんどいない中でのプロジェクト始動でした。そのため、各部署のヒアリングや電子カルテ・PACSのデモを終えて仕様書検討を始めた当初は、PACSはあくまで放射線画像の参照・読影のツールに過ぎないという認識で、それ以上の理解も興味も持っていませんでした。

その後、IT関連学会への参加や施設見学などを通して、統合ビューアという便利な参照ツールやデータの2次有効活用などを知るにつれ、徐々にPACSメーカーに興味を持つようになりました。

システム活用を知れば知るほど
統合システムが絶対欲しい！と思った

診療情報を統合し管理できるシステムの価値をはじめて実感したのは、鹿児島医療センターでの施設見学会でした。そこで目にしたアストロステージ社のシステムは、電子カルテメーカーとの連携による統合ビューアとしての役割だけでなく、QRコードを使用したスキャンシステムやタイムスタンプの導入による、原本保存などの機能を備えたものでした。各部門で実施される画像検査結果や、検体検査、文書などが1つのシステムで管理され、医師や看護師のみならず多くの職種がそれぞれの業務に有効活用していました。「こんな便利なものがあるのか！」という驚きと「絶対にこのシステムを診療現場に取り入れたい！」という胸の高なりを今でも覚えています。この見学会の後、診療情報統合管理システムの検討に限定して、再度デモを行いました。実際に現場で動いているシステムに触れ、使っている職員の満足感を確認できたことが、選定の決め手になったと思います。

導入システム

- DICOM 画像管理システム Nazca
- RIS システム NazcaRIS
- 診療情報統合システム STELLAR
- ドキュメント作成&管理システム STELLARReport
- 部門システム ASTRO Launcher

導入効果
コンセプトに基づいた理想のシステムの実現

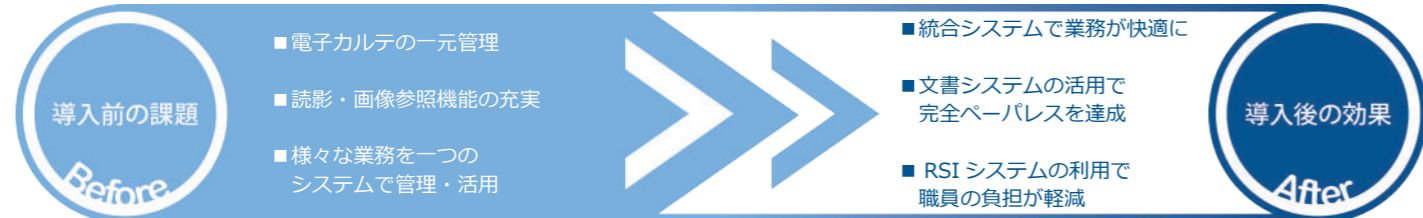
実際にシステムを使用してみて、最初は多種多様なデータと機能に戸惑いましたが、アイコンを使用した1画面構成のビューアはとても見やすく、参照や検索が手軽に素早く出来るため今では快適に使用しています。今回リリースしたSTELLARの文書システムは、スキャンを必要とする文書の管理ツール、文書をデータとして作成し容易に引用できる作成ツールを備え、職員の手間を増やさず完全ペーパーレスを達成することができました。各検査部門においても、RISシステムで検査指示や問診・同意書など関連文書の確認が可能で、医事会計への実施連携もできるため、安全面やコスト面においても職員の負担を減らす事ができたと感じています。

当院の医療情報システムのコンセプトは medical safety、information sharing、simple の3Sです。sharingでは診療情報統合管理システム、リアルタイムデータ取り込み、完全ペーパーレス、simpleではQRコードを利用したスキャンシステム、タイムスタンプ、電子署名を用いた原本保存を具体的なプランとしました。

少ない予算で理想に近いシステムを導入できたことへのアストロステージ社の貢献は大きかったと思います。



病院情報管理室の皆さん



高松医療センター：システム導入時期 / Dec 2015



当院は昭和16年創設の香川県立結核療養所を母体とした、70年の歴史を持つ病院です。その長い歴史の中で私たちは、結核をはじめとした呼吸器疾患を中心に診療部門を発展させながら、様々な変遷を経て現在は、政策医療としての神経筋難病のほか、内科系・外科系の一般診療、糖尿病をはじめとした生活習慣病や内分泌代謝疾患、高血圧・動脈硬化・心疾患などの循環器疾患、消化器疾患、骨関節疾患・リハビリテーションなどの、専門診療を展開しています。

香川県高松医療圏の中にあって、基幹病院や総合病院にはない特色を持った病院、即ち専門化した診療部門や政策医療においては県内外の患者様を受け入れながら、同時に一般急性期から回復期・慢性期まで、様々な疾病状況に対応できる機能をもった病院を、当院は目指しています。

所在地：香川県高松市新田町乙8
病床数：240床
診療科：内科・呼吸器内科・消化器内科・神経内科・循環器内科・外科・整形外科
リハビリテーション科・泌尿器科・皮膚科

今後の期待・要望

医学は日進月歩、医療の現場は日々変化し続けます。そんな中で、システムに縛られるというストレスを感じることなく業務を行いたいというのが本音です。

アストロステージ社には、これからも形に縛られたメーカーとして偏らず、病院と一緒に診療支援に繋がるシステムを進化させて行く姿勢を持ち続けて欲しいと思います。

今後の方針

医療情報システムの経験のなかった私共が、稼働後半年が経過した今、やっとシステムを使用しての通常業務に慣れ、「より使いやすくするためには？」と考える余裕ができたところです。

最新のシステムが風化しないようメンテナンスしていくことも勿論必要ですが、今後はアストロステージで集約したデータの分析など、さらに医療の質の向上につなげていけるような取り組みを行ってきたいと考えています。

システム構成図

